

多
明 治 の
見

染付細密画

加藤五輔展



多治見市文化財保護センター

岐阜県多治見市旭ヶ丘10-6-26

開館時間：午前9時～午後5時

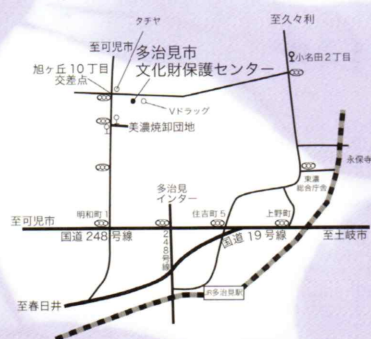
休館日：土・日・祝日

入場無料

電話：0572-12518633

URL <http://www.city.tajimi.lg.jp/bunkazai/>

主催：多治見市教育委員会



2018.9/18(火) - 12/28(金)

かとうごすけ

加藤五輔(1837－1915)

加藤五輔は天保8年(1837)に市之倉の窯元・嘉右衛門^{かえもん}の長男として生まれました。五輔の家は代々の窯元で、京都村雲御所の御用窯^{むらくもごしょ ごようがま}として良質な染付磁器を生産していました。

明治時代の初め、西浦圓治^{にしうらえんじ}が市之倉の丸窯^{まるがま}(大型製品を焼成するのに適した登り窯)で初期の輸出製品を焼かせていたころ、この工場の製作主任として従事していたのが加藤五輔でした。圓治との出会いによって、心魂を傾けて焼き物づくりに専念する五輔の作品が一気に花開き、世に知られるようになりました。その後圓治から独立し、市之倉字中島の丸窯でコーヒー碗皿や乳入れ、水差し、花瓶などを焼いていました。このころの丸窯での製品が五輔作品のなかでも優秀であったといわれています。のちには市之倉字東島の新窯に移りました。

五輔作品の特徴は、毛筆で描かれた精巧で緻密な染付細密画で、草花や風景など純日本的な題材を繊細なタッチで表現したところにあります。細密画を成功させるために五輔は原料の研究に人一倍熱心であったと伝えられています。土は数年寝かせてねばりを持たせ、呉須は半年もすって使うなど、その作り方は家族にも教えなかったといひます。

五輔は明治10年(1877)の第1回内国勸業博覧会で鳳紋章をはじめとして、パリ万国博覧会では名誉賞など数多くの博覧会・品評会で受賞を記録しています。

加藤五輔受賞歴

明治9年(1876) フィラデルフィア万国博覧会に出品

10年(1877) 第1回内国勸業博覧会に磁器製品各種を出品し鳳紋章^{ほうもんしょう}を受賞

審査評語には「美質群^{びしつぐん}を出づ、小盆松に雀の画、湯碗松^{さんけい}に錦鶏^{めいわん}及び茗碗^{せきへき}の赤壁賦^{せきふ}等精妙^{せいみょう}にして青華^{せいけ}愛すべし、花瓶急須もまた好し」とあり

11年(1878) パリ万国博覧会で名誉賞受賞

12年(1879) シドニー万国博覧会に出品

14年(1881) 第2回内国勸業博覧会で褒状を受ける

18年(1885) 東京上野公園五品共進会で五等賞を受賞

23年(1890) 第3回内国勸業博覧会で二等賞を受賞

24年(1891) 美術展に青華密紋皿付蒸器を出品

26年(1893) シカゴ・コンブスアメリカ上陸400年記念世界博覧会に花瓶・コーヒーセット等を出品し銅章を受賞美術展に青華四季花鳥画香炉を出品

27年(1894) 連合共進会で三等賞受賞

28年(1895) 第4回内国勸業博覧会で三等賞受賞

30年(1897) 連合共進会で三等賞銀章を受賞

33年(1900) パリ万国博覧会に花器・コーヒーセット・コウモリ傘握りを出品し銅章を受賞

34年(1901) 連合共進会で二等賞を受賞